

本 会 記 事

一般社団法人日本植物病理学会令和5年度第3回評議員会議事録

日 時：2023年11月26日（日）14:00～16:10

開催方法：オンライン会議（Zoom ミーティング）

出席者：

青木孝之，秋光和也，有江 力，磯貝雅道，岩井 久，岩波 徹，大島一里，大島研郎，大藤泰雄，金山晋治，兼松聡子，菊武和彦，北 宜裕，瀧川雄一，久保康之，児玉基一朗，小林括平，佐藤 衛，澤田宏之，塩見 寛，宍戸雅宏，志村華子，須賀晴久，高垣真喜一，高野義孝，高橋英樹，竹下 稔，竹本大吾，中馬いづみ，柘植尚志，津田新哉，東條元昭，土佐幸雄，中島千晴，中保一浩，長谷 修，濱本 宏，曳地康史，藤 晋一，古屋成人，堀田治邦，眞岡哲夫，増田 税，三瀬和之，守川俊幸，森山裕充，山次康幸，吉田重信，渡辺京子，平塚和之会長，一瀬勇規副会長，大里修一庶務幹事長

以上評議員52名（定員54名，欠席者2名：近藤則夫，鈴木信弘）

幹事：染谷信孝庶務副幹事長，石橋和大庶務幹事，煉谷裕太郎会計幹事，富高保弘庶務幹事，北沢優悟副会計幹事

I. 審議事項

1. 令和6年度功績者の推薦について（有江功績者推薦委員長）

名誉会員2種に高橋賢司氏および石井英夫氏，永年会員として大村敏博氏，那須英夫氏，本蔵良三氏，秋本正信氏および堀江博道氏が推薦され，承認可決された。

2. 令和6年度論文賞選考結果について（高橋編集委員長）

令和6年度の論文賞として以下の2報が選定されたことが報告され，承認可決された（筆頭著者ABC順）。

Aprilia Nur Fitrianti, Thanh Luan Mai, Le Thi Phuong, Hiyori Monden, Norika Shiiba, Hidenori Matsui, Yoshiteru Noutoshi, Mikihiro Yamamoto, Yuki Ichinose, Tomonori Shiraiishi & Kazuhiro Toyoda (2022) CEP peptide induces susceptibility of *Arabidopsis thaliana* to nonadapted pathogens. *Journal of General Plant Pathology* 88: 287–292.

Yoshifumi Shimomoto, Tomoyuki Okada, Kenichi Ikeda, Akio Tatara, Yusuke Hasegawa, Hironobu Yanagisawa, Sawana Takeyama, Kazusa Hayashi, Kazutaka Yano, Yasuaki Morita & Kenji Kubota (2022) Japanese star anise ringspot-associated virus is a distinct emaravirus transmitted by the eriophyid mite

(the family Diptilomiopidae). *Journal of General Plant Pathology* 88: 69–80.

3. 令和6年度学会賞，学術奨励賞の選定について（平塚賞選考委員長）

学会賞に3名，学術奨励賞に3名が選出されたことが報告され，承認可決された。選考結果は以下の通りであった（氏名のABC順）。

学会賞：

古屋成人氏「環境保全型農業に資する難防除植物病害等の戦略的生物的防除に関する研究」

三瀬和之氏「プロモウイルスと植物間の相互作用に関する分子生物学的研究」

津下誠治氏「イネ白葉枯病菌の感染機構に関する研究」

学術奨励賞：

千秋祐也氏「西南暖地の果樹ウイルスの分類と生態に関する研究」

深田史美氏「植物病原糸状菌の形態形成と感染適応戦略」

煉谷裕太郎氏「ウイルスの感染に必要な植物の因子の探索」

4. 令和6年度日本農学賞受賞候補者の選定および推薦について（平塚賞選考委員長）

委員会から選考経過が報告され，有江力氏を当学会より推薦することが報告され，承認可決された。

5. 令和7年度大会開催地について（平塚会長）

令和7年度の本大会をサンポートホール高松（香川県高松市）において開催することが提案され，承認可決された。

6. 令和6年度事業計画書および収支予算書について（大里庶務幹事長，煉谷会計幹事，北沢副会計幹事，高橋編集委員長）

令和6年度の事業計画書と収支予算案について報告され，承認可決された。評議員より次年度予算における学会会費の見積額について質問があり，未納分の収益を考慮して算出している旨説明された。

7. 令和5年度決算見込みについて（煉谷会計幹事）

令和5年度の決算見込みが報告され，承認可決された。

8. 令和6年度大会準備状況について（高橋大会委員長）

令和6年度大会の開催スケジュールと準備状況が説明された。対面とオンラインでのハイブリット方式での開催方針が提案され，視聴者数は制限なし，講演発表は先着順とする予定であることが報告され，承認可決された。

9. 国際植物保護会議 (ICPP 2024) 渡航補助について (有江国際化対応委員長)

渡航補助の人数と要件等について説明され、承認可決された。

10. ダイバーシティセミナー開催について (兼松男女共同参画推進委員長)

ダイバーシティセミナー開催 (案) が説明され、承認可決された。

11. 男女行動参画推進委員会名称の変更について (兼松男女共同参画推進委員長)

委員会の名称について、「男女共同参画推進委員会」から「ダイバーシティ推進委員会」に変更したい旨の提案があり、承認可決された。

12. 学会ホームページ刷新と費用について (平塚会長)

次年度の学会ホームページのリニューアル案が説明され、承認可決された。

13. 広報委員会の設置について (平塚会長)

本委員会設置の目的や役割について説明され、承認可決された。

II. 報告事項

1. 令和6年度副会長候補者および令和6・7年度監事選出の選挙結果について (北選挙管理委員長)

令和6年度副会長候補者に高橋英樹氏が選出されたことが報告された。また、監事候補者として、渡辺京子氏、大島研郎氏、濱本宏氏が選出されたことが報告された。

2. 令和6年度評議員の選挙結果について (北選挙管理委員長)

各地区の評議員選挙の結果が報告された。また、被選挙権については、選挙実施年の4月時点の年齢が適用されるため、年齢制限に注意が必要であることが報告された。

3. 令和5年度日本農学賞の受賞について (大里庶務幹事長)

本学会が推薦した宮下脩平氏の受賞が決定したことが報告された。

4. 令和5年度大会開催報告 (岩波前大会委員長、煉谷会計幹事)

本年度の大会の収支決算が報告され、当初予算額内の執行であった旨報告された。

5. 令和5年度部会・研究会・談話会の開催状況 (大里庶務幹事長)

令和6年度の本大会は、大会と総会を別日程で実施することが報告されるとともに、他の部会および研究会当の開催状況について報告された。

6. 編集委員会報告 (高橋編集委員長)

英文誌および和文誌の投稿状況や受理状況などについて報告されるとともに、インパクトファクターがこれまでと同等の値であることが報告された。

7. 国際化対応委員会報告 (有江国際化対応委員)

2024年に開催予定の国際植物病理学会 (ICPP) への渡航補助について説明された。また、同年に開催予定のアジア植物病理学会への日本植物病理学会会員の参加促進についても報告された。さらに、2025年度開催予定の日韓シンポジウムにおける参加費の受け入れ、ホームページの設立等について、検討する必要があると幹事会に要請があった。ICPP2023において、白石有紀氏および久保康之氏がフェローを受賞されたことが報告され、今後も本学会からフェローを推薦する必要性を検討すべきとの意見があった。

8. 病名委員会報告 (佐藤病名委員長)

本年度の病名委員会の業務スケジュールについて報告された。

9. 将来問題検討委員会報告 (平塚将来問題検討委員長)

科研費の申請状況、選挙における女性比率向上等のダイバーシティ対応および学会ホームページの刷新について報告された。

10. 男女共同参画推進委員会報告 (兼松男女共同参画推進委員長)

第1回ダイバーシティセミナーの開催報告、学会員の男女比率、ダイバーシティ推進に関するアンケートの集計結果について報告された。

11. 技術士対応委員会・5学会技術士育成推進委員会報告 (濱本委員長)

令和5年度、8名が技術士に合格したことが報告された (通算161名)。また、技術士試験対策セミナーの開催予定 (2024年3月14日) について報告された。

12. 日本農学会報告 (大里庶務幹事長)

2023年第2回日本農学会運営委員会が9月5日にオンライン会議で開催され、主な議事について報告された。

13. 3学会会長懇談会報告 (平塚会長)

2023年10月31日に開催された3学会会長懇談会の議事について報告され、将来的に学会開催を三学会で連携する案について報告された。

14. 日本植物防疫協会との業務委託契約更新について (大里庶務幹事長)

今年度と同様に業務委託契約の更新を行ったことが報告された。

15. 令和5年度バナー広告掲載実績について (石橋庶務幹事)

今年度のバナー広告の実績について、株式会社ニッポン

ジーン, 農業工業会, 小学館および横浜バイオテクノロジー株式会社の4件であったことが報告された。

16. 協賛依頼 (大里庶務幹事長)

2023年9月20日に開催された第38回報農会シンポジウムに協賛したことが報告された。

17. その他

学会運営方針諮問委員会(山次学会運営方針諮問委員長)より, 学会マニュアルの改訂の状況について, 本年度内に作業を終了できる見込みであることが報告された。また, マニュアルには曖昧な表現部分が認められるため, それらを幹事会で諮ってほしいとの要望があった。

山次日本微生物学連盟理事より, 日本微生物学連盟「野本賞」への積極的な推薦および応募について依頼された。

一般社団法人日本植物病理学会令和5年度第3回理事会議事録

日時: 令和5年11月26日(日) 16:20~16:45

開催方法: オンライン開催 (Zoom ミーティング)

出席者:

理事: 平塚和之会長 (代表理事), 一瀬勇規副会長 (代表理事)

澤田宏之, 高野義孝, 高橋英樹, 瀧川雄一, 竹下 稔, 眞岡哲夫, 増田 税

以上理事9名 (現員10名, 欠席者1名: 有江 力)

監事: 濱本 宏, 大島研郎, 渡辺京子

以上監事3名 (現員3名, 欠席者0名)

オブザーバー: 大里修一, 染谷信孝, 煉谷裕太郎, 石橋 和大, 富高保宏, 北沢優悟 (幹事6名)

審議事項

1. 令和6年度事業計画書および収支予算書について
2. 令和5年度第3回評議員会の審議事項の確認

報告事項

1. 代表理事の職務執行状況の報告
2. 令和5年度第2回理事会議事録の確認
3. その他

議事経過の概要

11月26日, オンライン会議で開催された令和5年度第3回評議員会の終了後, 引き続き評議員を兼任する理事9名, 監事3名が参加していることを確認した。

定款第32条により, 平塚和之会長が議長となった。理事および監事の出席数から, 定款33条の規定を満たしており, 本会の成立を報告した。続けて議長は, 本理事会はテレビ会議システム (オンライン会議システム) を用いて

開催することを説明し, かつ出席者の映像及び音声が即時に他の出席者に伝わり, 出席者が一堂に会するのと同等の相互に十分な審議を行うことができる状態となっていることが確認された。

1. 第1号議案 令和6年度事業計画書および収支予算書について

議長より, 資料に基づき, 令和6年度事業計画書および収支予算書の説明がなされた。議長の指示により, オブザーバーの大里庶務幹事長および煉谷会計幹事より補足説明がなされた。議長が本件の承認を求めたところ, 全員異議なく, 本件は承認可決された。

2. 第2号議案 令和5年度第3回評議員会の審議事項の確認

議長より, 同日, 本会に先立って開催された令和5年度第3回評議員会において, 審議承認された以下の5件,

- 1) 学会賞, 学術奨励賞の受賞者候補の決定
- 2) 日本農学賞候補者の推薦
- 3) 令和5年度大会の会計報告
- 4) 日本植物防疫協会への学会事務業務委託契約

について説明がなされた。増田理事より評議員会審議事項の学会ホームページ刷新における業者選定について質問があり, 平塚会長およびオブザーバーの大里庶務幹事長より補足説明がなされた。議長より, 理事会での承認を求めたところ, 全員異議なく, 4件は承認可決された。

3. 報告事項

議長より職務執行状況の報告として, 令和5年度の事業計画に沿って遅滞なく事業計画を進めていることが説明された。また, 令和5年度第2回理事会議事録の報告等が行われた。

以上をもって, 終始異常なく議事が終了したので, 議長は閉会を宣言し, 16:45 散会した。

令和6年度事業計画書ならびに収支予算書

1. 行事案

- (1) 学会報 (英文誌第90巻1~6号, 和文誌第90巻1~4号) を発行する。
- (2) 大会, 部会, 談話会, 研究会等を開催する。
 - 1) 大会: 令和6年3月13~15日 仙台国際センター (仙台市)
 - 2) 北海道部会: 令和6年10月12~13日 北海道大学 (札幌市)
 - 3) 東北部会: 令和6年9月頃 山形大学 (山形市)
 - 4) 関東部会: 令和6年9月頃 東京農工大学 (東京都)
 - 5) 関西部会: 令和6年9月19~20日 愛媛大学 (松山市)

- 6) 九州部会：令和6年11月頃 佐賀市内
 7) 第33回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム：令和6年3月16日 東北大学（仙台市）
 8) 第17回バイオコントロール研究会：令和6年3月16日 東北大学（仙台市）
 9) 第15回植物ウイルス病研究会：令和6年3月16日 東北大学（仙台市）
 10) 第23回植物病原菌類談話会：令和6年6月22日 オンライン
 11) 第58回植物感染生理談話会：令和6年9月1～3日 名古屋大学（名古屋市）
 12) 令和6年度植物病害診断研究会：令和6年秋頃 開催場所未定
 13) EBC研究会ワークショップ2024：令和6年9月頃 開催場所未定
 14) 第18回植物病害診断教育プログラム：令和6年9月頃 横浜国立大学（横浜市）
 15) 植物細菌病談話会：令和6年秋頃 開催場所未定
 16) 土壌伝染病談話会：令和6年10月17または18日 文部科学省研究交流センター（つくば市）
- (3) 定時総会：令和6年3月 令和5年度事業報告・決算承認および令和6年度理事選任
 理事会：令和6年度第1回（令和6年2月）定時総
 会議案審議
 令和6年度第2回（令和6年3月）代表理事選任
 令和6年度第3回（令和6年11月）令和7年度事業計画・予算承認
 評議員会：令和6年度第1回（令和6年2月）定時総会議案審議
 令和6年度第2回（令和6年3月）令和6年度委員等選任
 令和6年度第3回（令和6年11月）令和7年度事業計画・予算承認
- (4) 学会賞，学術奨励賞，論文賞等の選考を行う。
 (5) 大会において学生優秀発表賞の選考を行う。
 (6) 名誉会員，永年会員の推挙を行う。
 (7) 令和6年度理事候補者（次期副会長候補者）の選出を行う。
 (8) 令和6年度理事候補者（次期会長候補者，次期副会長候補者）を総会へ推薦し，次期会長候補者，次期副会長候補者として理事会への推薦を行う。
 (9) 日本農学賞，日本農学進歩賞，日本学術振興会賞等の受賞候補者の推薦を行う。
 (10) その他

2. 一般会計収支予算書（令和6年1月1日から令和6年12月31日まで）

科 目	2024 年度	2023 年度	(単位：円)
	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	16,577,000	16,369,000	208,000
正会員会費収入	9,415,000	9,409,000	6,000
学生会員会費収入	527,000	420,000	107,000
学部生会員会費収入	30,000	20,000	10,000
外国会員会費収入	30,000	30,000	0
準会員会費収入	1,425,000	1,440,000	△ 15,000
賛助会員会費収入	5,150,000	5,050,000	100,000
会報刊行収入	2,613,000	2,540,000	73,000
頒布収入	2,540,000	2,420,000	120,000
広告料収入	58,000	120,000	△ 62,000
著者負担金収入	15,000	0	15,000
事業収入	16,750,000	9,837,000	6,913,000
大会運営収入	10,620,000	5,750,000	4,870,000
部会収入	2,342,000	2,164,000	178,000
談話会・研究会収入	2,870,000	1,443,000	1,427,000
教育プログラム収入	918,000	480,000	438,000
雑収入	202,000	252,000	△ 50,000
預金利息収入	2,000	2,000	0
雑収入	200,000	250,000	△ 50,000
事業活動収入計	36,142,000	28,998,000	7,144,000
2. 事業活動支出			
会報刊行費支出	8,995,000	9,010,000	△ 15,000
印刷製本費支出	5,345,000	4,910,000	435,000
編集費支出	3,650,000	4,100,000	△ 450,000
事業支出	17,582,000	10,995,000	6,587,000
大会支出	10,620,000	5,450,000	5,170,000
部会支出	2,527,000	2,800,000	△ 273,000
談話会・研究会支出	3,336,000	1,835,000	1,501,000
教育プログラム支出	1,099,000	910,000	189,000
学術奨励関係費支出	750,000	710,000	40,000
国際学術交流費支出	300,000	300,000	0
情報電子化費支出	1,122,000	1,049,000	73,000
HP 充実費支出	430,000	400,000	30,000
情報維持費支出	692,000	649,000	43,000
男女共同参画支援費支出	0	200,000	△ 200,000

ダイバーシティ推進支援費支出	400,000	0	400,000
負担金支出	630,000	640,000	△ 10,000
男女共同参画学協会連絡会負担金支出	10,000	10,000	0
JABEE 負担金支出	50,000	50,000	0
日本農学会負担金支出	120,000	120,000	0
植物保護科学連合負担金支出	0	50,000	△ 50,000
日本微生物学連盟負担金支出	100,000	100,000	0
国際植物保護科学会負担金支出	50,000	50,000	0
国際植物病理学会 (ISPP) 負担金支出	300,000	260,000	40,000
事業運営費支出	1,020,000	920,000	100,000
会議費支出	250,000	250,000	0
旅費交通費支出	300,000	200,000	100,000
各種委員会関係費支出	470,000	470,000	0
管理費支出	5,010,000	5,005,000	5,000
通信運搬費支出	400,000	300,000	100,000
消耗品費支出	100,000	180,000	△ 80,000
事務管理費支出	3,190,000	3,190,000	0
印刷費支出	150,000	150,000	0
外部監査管理費支出	300,000	300,000	0
雑支出	870,000	885,000	△ 15,000
事業活動支出計	35,809,000	28,829,000	6,980,000
事業活動収支差額	333,000	169,000	164,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	0	0	0
学術事業安定化基金	0	0	0
学術奨励基金	0	0	0
国際学術交流基金	0	0	0
固定資産取得支出	1,656,000	0	1,656,000
投資活動支出計	1,656,000	0	1,656,000
投資活動収支差額	△ 1,656,000	0	△ 1,656,000
III 財務活動収支の部			
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	△ 1,323,000	169,000	△ 1,492,000
前期繰越収支差額	14,686,731	11,838,277	2,848,454
次期繰越収支差額	13,363,731	12,007,277	1,356,454

3. 学会報編集計画案

(1) 編集機関

学会報第90巻の編集は、英文誌 (Journal of General Plant Pathology), 和文誌 (日本植物病理学会報 Japanese Journal of Phytopathology) とともに下記のように岩手大学にて行う。

編集事務局：岩手大学農学部

編集委員長：磯貝雅道 (岩手大学)

編集副委員長：藤 晋一 (秋田県立大学)

編集幹事長：八重樫元 (岩手大学)

印刷：英文誌 Springer Nature Singapore Pte Ltd.
和文誌 中西印刷 (株)

発行日：英文誌 1号1月, 2号3月, 3号5月,
4号7月, 5号9月, 6号11月
和文誌 1号2月, 2号5月, 3号8月,
4号11月

(2) 投稿要領

原稿は投稿規程・細則に従って作成し、和文誌については、従来通り編集委員長 (磯貝雅道, jgppjpp@iwate-u.ac.jp) 宛にメール送付すること。

英文誌については、ウェブサイト <https://www.editorialmanager.com/jgpp/> にアクセスして投稿すること。

2023年度第3回日本農学会運営委員会議事録

日時：2023年12月5日 (火) 15時～16時05分

場所：ZOOM会議

出席者：

大杉 立会長, 大政謙次副会長, 渡部終五副会長, 佐藤秀一監事, 與語靖洋監事, 根角博久 (園芸), 松下範久 (樹木医), 高橋輝昌 (森立/芝草), 土肥哲也 (生態), 片岡美喜 (地域経), 岩田洋佳 (育種), 山本和貴 (応糖), 大井田寛 (応動昆 (代)), 木村健一郎 (国地開), 松村一善 (砂丘), 鴨下頭彦 (作物 (代)), 鈴木雅京 (蚕糸), 春原由香里 (雑草), 中川貴之 (獣医), 大里修一 (植病), 陣川雅樹 (森林), 長阪玲子 (水産), 塩出大輔 (木工), 齋藤勝晴 (草地), 山本清龍 (造園), 松田二子 (畜産), 渡邊 学 (動遺育), 神谷岳洋 (土肥), 宍戸雅宏 (土微), 上吉原裕亮 (熱農), 濱寄孝弘 (気象), 松本浩一 (経営), 伊藤晋作 (農薬), 杉浦幸二 (繁殖), 古橋 元 (フード), 久保寺秀夫 (ペドロ), 齋藤継之 (木材), 青木謙治 (木加工), 荒木徹也 (農施), 石神靖弘 (農情), 西田和弘 (農村工), 杉野弘明 (復興), 田中 亘 (林経), 黒住圭子 (事務担当)

欠席者：

矢部和弘 (シス農), 堀田和彦 (実農), 米山香織 (植調),

龍原 哲 (森計), 矢沢勇樹 (海水), 太田能之 (家禽), 安永円理子 (生環), 河野恵伸 (農経), 葛山智久 (農化), 建石邦夫 (農作) 吉田 誠 (木保存), 林 薫平 (有機), 五月女格 (食料工), 牧山正男 (農計), 落合 陽 (木質)

議長：大杉会長

進行：濱寄庶務担当常任委員

議事：

- 2023年度第2回日本農学会運営委員会議事録 (案) の承認について
- 2023年度事業報告 (案)
- 2023年度収支決算報告 (案)
- 2024年度事業計画 (案)
 - 2024年度シンポジウム実施計画 (テーマおよび話題提供) (案)
- 2024年度収支予算計画 (案)
- 2024年度総会および日本農学賞選考会について
- 役員改選に伴う推薦依頼
- 2024年度会員 (学協会代表者)・運営委員・常任委員について
- 2024年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順
- その他
 - 日本技術者連盟の依頼について

技術動画を介して技術・製品・知財の売り手と買い手を結びつけるビジネスマッチメイキングサイトの紹介

濱寄常任委員より、運営委員の過半数の出席がありこの運営委員会は成立している旨報告され、議題に先立ち大杉会長より挨拶があった。

議事1. 2023年度第2回日本農学会運営委員会議事録 (案) の承認について

濱寄庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事2. 2023年度事業報告 (案) について

濱寄庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事3. 2023年度収支決算報告 (案) について

上吉原会計担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事4. 2024年度事業計画 (案) について

濱寄庶務担当常任委員より資料に基づき、第95回日本農学会大会は弥生講堂で開催、2024年度日本農学会シンポジウムの開催、2023年度日本農学会シンポジウム講演要旨の公開、(公財) 農学会第23回日本農学進歩賞の共催、各種委員会の開催、その他関連シンポジウム等への後援について説明があった。

(1) シンポジウムのテーマおよび話題提供募集について

山本企画担当常任委員よりシンポジウムの実施計画につ

いて資料に基づき説明があった。「日本の農学の国際貢献(仮)」の内容で話題提供を依頼し、日本育種学会、日本応用糖質科学会、日本作物学会、日本土壌肥料学会、日本農芸化学会の5学協会から提案があった。例年8講演を行っているので、3講演について学協会を絞って依頼して8講演で行うことが報告された。

議事 5. 2024年度収支予算計画(案)について

上吉原会計担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事 6. 2024年度総会および日本農学賞選考会について

濱嵯庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり、今回は4年振りに対面で開催することが報告された。日本農学賞の選考会は推薦件数が多かった関係上、例年より30分繰上げての開催となること、また、役員選挙があるため、総会は各学協会1名の参加とすることが説明された。

議事 7. 役員改選に伴う推薦依頼

濱嵯庶務担当常任委員より資料に基づき、事務局より推薦依頼をお送りする旨説明があった。與語監事より推薦書は公印省略可能との助言があった。

議事 8. 2024年度会員(学協会代表者)・運営委員・常任委員について

濱嵯庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。なお、2024年度常任委員は、現常任委員の3名(日本造園学会、日本畜産学会、日本農芸化学会)に加え、新たに日本農作業学会、日本繁殖生物学会、日本フードシステム

学会の3名が就任することが報告された。

議事 9. 2024年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順
濱嵯庶務担当常任委員よりあみだくじアプリ利用して行うことの説明があり、山本企画担当委員の進行により抽選が進められた。厳正な抽選により以下のように推薦学会による発表順が決定された。

発表順(以下17件)

1. (一社)日本森林学会
2. 日本生物環境工学会
3. (公社)農業農村工学会
4. (公社)日本農芸化学会
5. (一社)日本植物病理学会
6. 日本農業気象学会
7. (一社)日本応用糖質科学会
8. (公)日本繁殖生物学会/(公社)日本畜産学会
9. (一社)日本応用動物昆虫学会
10. (一社)日本育種学会
11. 日本作物学会
12. (一社)農業食料工学会
13. (一社)植物化学調節学会
14. 日本農薬学会
15. (公社)日本水産学会
16. (一社)日本土壌肥料学会
17. (公社)日本獣医学会

10. その他

1) 日本技術者連盟の依頼について

濱嵯庶務担当委員より資料に基づき説明があった。また、All Japan 学協会連携 IC サークル活動コンソーシアム事業 All Japan 学協会連携 IC サークル活動を日本農学会のホームページに掲載し紹介することが報告された。

以上